

花の語らい



ライオンズクラブ国際協会
337A地区7R3区

1992.7～1993.6

第2号



福岡桜ライオンズクラブ



FUKUOKA SAKURA
LIONS CLUB

会長提言 地域を結ぼう温かい手と手
世界を結ぼうやさしい手と手

目 次

会長ご挨拶	1
座 談 会	2
おもいのままに	
『ライオンズ奉仕と仕事のはざま』 … (L 安藤 皇)	16
「ボランティア」という言葉を考えるとき (L 三坂万里子)	17
御 神 火 祭	(L 大山 朱實) 18
心 清 浄	(L 豊原 範恵) 19
陶芸教室見学	(L 入江 恭子) 20
はるかなりエベレスト	(L 金川喜久子) 21
「家族」の作文を読んで	(L 斉藤 敬代) 23
敗戦時の私の体験	(L 長友美智代) 24
白いアオザイの群	(L 油布 征子) 26
「華と音によるジョイントコンサートを終えて」 … (L 浜田 一昭)	28
雑 談	(L 野田 慎子) 29
“反省”ライオンテーマ	(L 長 寛子) 30
人を信ずる	(L 国友千恵子) 30
美しくなるための研究	(L 中島 寛子) 32
次期会長ご挨拶	(L 大山 朱實) 33
編 集 後 記	34
アクティビティ	表 3

<ご 挨拶>

いつか 何処かで 誰かに



会 長 L 松 井 和 子

会員皆様方のおかげで楽しく会長をつとめさせていただき有難うございました。
皆様方の多大なる御協力に深く感謝申し上げます。
何事をもこなす幹事L山本、しっかりとした会計L江口、熱心な委員長の方々、すばらしい会員の皆様に支えられた一年でした。

私は、良き友、良き人に恵まれて本当に幸せだったと思います。
すばらしい思い出もたくさんたくさん胸のアルバムに刻むことが出来ました。
いつか 何処かで 誰かに この感謝の気持ちをかえしたいと思うのです。

「いつか 何処かで 誰かに」今私の一番好きな言葉です。
この言葉は、私が今年の始めニューヨークへ行った時、実際に感じた言葉です。
私は、エール大学眼科に留学中の次男に会うためニューヨークに行きました。
急に留学が決まり行ってしまった次男に、忙しいからと云って何も用意をしてやれなかった母親としての負目と、もうそろそろホームシックにかかっているだろうと云う思いで、母親としての役目を果たそうと思い立った旅でした。

三日目スーパーマーケットに買い物に行った時の事です。私が食パンをカゴに入れたのです。すると横に居た御婦人、年の頃は70才前後、身ぎれいな小ぶとりな御婦人が寄って来て、丸いパンを指さして、あれが一番おいしいのだと云うのです。このハムはおいしいがあれはダメだとか、ずっとつきっきりで説明をするのです。変な人だなあと思っていたら最後に、そのおいしいと云うパンを私に手渡し、「これは小さな私の心です。」と云ったのです。私は不思議に思いきいてみました。その御婦人は10年前、一年間日本に住んでいたと、その時日本の人から大変親切にしてもらい常に感謝の気持ちを持っていた。だから、日本人を見たら、何かしてあげたいと思うのだと云ったのです。

何と素晴らしい心を持った人だろうと私は感謝しました。
誰かが施した親切のお返しを私が受けたわけです。その時うまれた言葉が「いつか何処かで 誰かに」だったので。

いつか 何処かで 誰かに…感謝の気持ちを現せたら、…そしてみんなが心がけたら、平和な世界が訪れるのではないのでしょうか。

座 談 会

1992.7 ~ 1993.6

多彩な事業活動を終えて ~

司 会 本日は公私共に忙しい中お集りいただきましてまことに有難うございます。
桜ライオンズのクラブ誌第2号を発行するにあたり“花の語らい”というタイトルにちなんで松井会長を囲んでの花の座談会を企画いたしました。私は司会を担当いたしますPR委員長の木原でございます。では、本日御出席の皆様をご紹介申し上げます。

第四期 会 長	L 松 井 和 子
第四期 幹 事	L 山 本 千鶴子
第四期 会 計	L 江 口 つや子
第四期 ライオンテーマ	L 長 寛 子
第四期 テールツイスター	L 山 下 富美子
第四期 アクティビティ委員長	L 飯 田 馨 子
第四期 福 祉 委 員 長	L 入 江 恭 子

そしてPR委員会からは

PR委 員 長	L 木 原 園 枝
〃 副委員長	L 吉 松 セツエ
〃 委 員	L 野 田 恵美子

紙面の都合もございますので、満足のいく編集が出来ないかと思いますが、よろしくお願い致します。

司 会 会長より座談会にはいる前に一言、お言葉をいただきます。

会 長 今年一年間盛りたくさんの行事をしました。皆さん方と一緒にこんなに楽しく実のある活動が出来ましたことを非常に嬉しく思っております。そしてこれは、何かをする時に協力する会員の力の結集こそがサクラクラブの強さだと確信しています。

これから一つひとつ反省をかねて皆様とお話をまじえたいと思います。

司 会 ありがとうございました。

高 齢 社 会 男 性 の 視 点

司 会 まず最初に、大好評だった『高齢社会男性の視点』について、このシンポジウムを思いたれた理由を会長より伺いしたいと思います。



L 松 井 和 子

会 長 この問題をとりあげましたきっかけは何かと申しますと、NHKのテレビドキュメントで「二人だけで生きたかった」と言うある老夫婦心中のドキュメントを見て、何故死を選ばなければならなかったのか。女性が痴呆となった時健康ではあるけど世の中を会社人間として育ってきた男の人にとって社会人間にはなれないということです。女性が痴呆になった時の対応の仕方が判らない、転々として結局は死を選ばなければならなかったという事実をじっとみて、本当に困るのは男性ではないだろうか、それでは男性側から老人問題を考えてみるシンポジウムをしたらと云うことで、思い立ちました。事前に幹事と共に先生方のお家を訪問し、シンボリストのお家も尋ねて色々な願いや取材をしました。

当日は、反響も大きく900人のお客様が御出席になり大変うれしく思いました。

今でも方々から問合せがあります。



司 会 それでは、アクティビティ委員長L飯田
はどのように思われましたか。

L 飯田 出席者に女性より男性が多かったのには
驚きました。人数の方も900人の人が集
まるとは想像もしてなかったことです。
それだけに関心が高かったのだらうと思
います。



L 山本 千鶴子

L 山本 このシンポジウムというのは皆と一緒にすれば本
当はいいだろうけど人と人とのつながりで会長に
お願いして進めてもらわなければいけない部分が
沢山ありましたので、いよいよその時になってお
手伝いしてもらったということが、非常に申し訳
なかったんですが成功したことでもあるし、他の
ライオンズの方達も大変興味を持ってあった中で
成功して本当によかったと思いました。



L 飯田 馨子

L 飯田 いろんな形で新聞等にPRをしていただいたので大勢出席されたのだと思
います。

L 山本 PR活動とは新聞等の、報道関係をまきこんでPRしないと力がないですね。

会 長 そうですね。新聞社と共催したことでPR効果が充分あったと思います。

司 会 今回の成功の基は対外的な方面に力をいれられたからといっても過言ではあ
りませんね。今後も、是非共このような機会を作っていただき、大いに老後
について勉強していきたいものだと思います。

L 入江 ちょうど節目だと思います。

男性が今迄会社人間として働き、50才位から老後のためにだんだん変わりつ
つある時代ではあります。今日男性とタイトルがついただけでも、老後を考
えるきっかけになったと思われます。

L 山本 老後の不安を、人には言えない部分があるのではないのでしょうか。

会 長 自分の老後は妻がみる、親の老後も妻が見る、と考え自分の老後には感心が
うすかったと思います。

この話題は真剣に考えてほしいのです。今後は社会問題として老人ホームを
もっと作るとか介護の手を多くするとか、もし自分自身に交通事故でも起こ
った時はどうするのかとそのためにもこのシンポジウムを行ったわけです。

L 山本 男性にはやはり自分の老後については、言い表せない問題がありますね。こ
れからも又是非やって頂きたいものです。

司 会 今回の催しはきっかけとして大変良い時期だったと思います。現在一人暮ら
しの男性のグループで、お料理とか何か講座等に積極的に活動してある方々
もいらっしゃるのではないのでしょうか。次回には又この様な方々にも出席し
ていただいて紹介出来れば良いと思っております。それでは次の労力アクト
について皆さんの御意見をお伺いしたいと思います。

2つの心に残る継続アクト

司 会 継続することに意義のあると言われる2つの労力アクト、特別養護老人ホー
ムサクラ園とおもちゃ作りについてですが、まずサクラ園に毎月いってらっ
しゃる委員長L入江より説明をしていただけますか。

L 入江 奉仕日を決めるにあたってはサクラ園の婦長さんに御
相談致しまして月に1回第2水曜日と決定しました。

司 会 どのようなアクトをなさいましたか。

L 入江 おむつたたみとシーツの取替えです。手が足りない
ので大変よろこばれました。途中でもう少し違った
ことをしてみたいなあとか希望しましたが、限界
があるみたいで結局は二つの仕事を一年間続けることにしました。



L 入江 恭子



司 会 L三坂のお菓子も喜ばれたと聞きました。

L入江 L三坂は大変忙しいのに、自分なりの奉仕を季節に合わせて手作りのお菓子をお年寄りのために送って下さいました。本当にありがたく思いました。

会 長 今回のアクトは一回きりでなく一年間きっちり続けて下さったこと。それが本当の奉仕だと思いますね。これは委員長のしっかりした信念があったからではないでしょうか。これは素晴らしいことだと思います。

L入江 その他にお年寄と中学生との焼き物教室にも参加いたしました。これも大変喜んでいただきました。

司 会 その時の様子をお話していただけませんか。

L山下 そうですね。作品をみるより私はお年寄りを見ていました。お年寄りの方達の顔の表情がいきいきしてましたね。それがとても印象的でした。

L飯田 自分の孫をみるような目で見ていらっしゃいましたね。

会 長 一つの物を作る過程でのお年寄りと子供達の肌のふれあい、つまりスキンシップが何よりのお年寄りの喜びのように思えました。

L山下 自分が年をとってお年寄りになったらどうなるのか。

青少年に勉強をしていただくためにも良かったと思います。

会 長 そうですね、現在核家族でお年寄りに関わっていない子供が多くて、まず理解が出来ない、少しでもどうしたら近づけられるか。サクラ園ではお年寄りと中学生の子供達が何か一つ作ることによって少しでもお年寄りの事を理解出来るようになる良いチャンスだと思います。

L山本 委員会活動は例会で各委員長が報告していますが、福祉委員会ばかりでなくなんの委員会でも一緒ですので是非関心を持っていただければと思いました。

司 会 会長が代わっても継続アクトとされるからには、是非続けていただきたいですね今後も。

それでは次の“おもちゃ作り”話を進めてまいります。

L山下いかがでしょうか。御苦労もおありになったと思いますので、お聞かせ下さい。



L 山下 富美子

L山下 手仕事の好きな人達で毎週金曜日に私の家に集まって作ってまいりました。

会 長 毎年今迄はクリスマスの時期に合せて作っていただきプレゼントしてきましたが、とても素晴らしい作品でしたので、今年は是非共多くの方々にみていただこうと、足場のよいイムズビルをお借りして展示会しました。



司 会 ご案内の絵ハガキに枠を入れずに無限に夢が広がるおもちゃの構成はとてもよかったですね。それに当日のお客様も多かったですね。

会 長 おみえになった方々の中には、是非共売って下さいと言う人もいました。

L山本 そうですね。連日沢山の方に来ていただき、たしか約2000人はみえてたと思いますよ。

L飯田 作品を手にして喜んで遊んでいた子供も結構いましたね。

山下 私共は自分の趣味で自分の好みで作ри、幸いもらって下るところがありましたので前年度、前々年度とお持ちしましたが、それを今回のように展示会にするなんて考えてもおりませんでした。恥ずかしい気がします。

長 皆であれしよう、これしよう、とっさに考えてやったわけです。

司 会 成功したわけですね。皆様のおかげです。

会長 この作品は要するに南福岡病院の子供達と特別養護老人ホームのお年寄りと松風園の子供達に贈ったわけですね。松風園では、蛇を体にまきつけた子やお面をかぶった子が、自分の姿を鏡に写して喜んでいましたね。

江口 お家の整理をしてたんすの中をみたりしますと良い布が出てきたりします。

何かお役にたつのではないかとすぐ考えます。

山下 いままで、いろいろお届けしてまいりましたが、今後続けていくための方針としては、何が喜ばれているのか、実際どのように役立っているのかということを考えながら、又会長あるいは三役の方々と御相談しながら続けていけばと思っております。

司 会 本当にご苦労さまでした。これからは是非共楽しみに待っているお年寄りや子供達のためにもがんばって続けていただきたいと思います。



L 江口つや子



CSFキャンペーントークショー

“事業資金獲得”を終えて

司 会 会長より世界の事業資金獲得現状とその重要性について説明していただきたいと思います。

会長 CSFとはキャンペーンサイトファーストの意味です。要するに世界から失明をなくそうと云う運動です。失明を防ぎたいと云う運動です。

例えば、アリナミンを1週間に1粒与えただけでも失明が防げる子供たちもいるのです。この様な子供達を是非救いたいと云う運動です。

司 会 それに協力する第1回の資金獲得として、『宮尾すすむトークショー』をされたんですね。

会長 ハイ、そうですネ。なぜ宮尾すすむさんを選んだかと言いますと、今バブルがはじけたこの時期にどういう社長が成功するのかという実例をたくさんご存じでしたから、皆さんの中にもご存じの方もあるかと思いますが、「日本の社長シリーズ日本の社長500人に聞いた成功のエピソード」と云うテレビ番組をもっていて、いっぱいネタをもっていっぱいしゃべります。

『その社長がなぜ成功したのか、どうゆう社長が成功するのか』等のお話をお聞きするために、お呼びしたのです。

宮尾すすむさんのユーモアたっぷりの話し方に会場の皆さんも笑いの渦の中で聞いておられましたね。

山 本 この日のお客様は、社長の方が多く様でしたが、感じいる言葉など、身にしてみている感じがしたでしょうね。成功された社長の中にも色々苦労話もございました。そして、

①自分の仕事にほれること。

②人の3倍働くこと。

③信頼されること。

この3つが出来れば『あなたも社長になれるかもね』という話もあって楽しく、自信を与えられました。

二次会のパーティーは、和気あいあいの雰囲気が始まりました。宮尾すすむさんも、会場に来てくださりまして、心のこもった食事と記念撮影で盛り

上がりましたね。

写真も大勢で写ってありました。写った方々からドネーションをしていただいたり、とても意義あるひとときでした。

会 長 宮尾すすむさんのお人柄でしょうね。



司 会 次に、今回の事業収支決算を、会計よりご報告お願い致します。

江 口 まず収入のほうですが、券の販売枚数は『348枚』です。1枚1,6000円、総売上は『5,570,000円』になります。

支出の方は『2,924,778円』で、差し引き事業収益金は、『2,645,222円』となっております。その内CSFに1万ドルいたしました。

山 本 これだけの枚数が売れたということは素晴らしいことですね、1枚16,000円という金額も、このような内容であれば、1人3枚の割り当てもそんなには負担ではなかったと思いますね。

会 長 資金がなければアクトは出来ません。そのため桜では年3回と決まっています。今年はチャーターナイト及び納涼例会の時に行われるオークションとトークショーをいたしました。三つが本当の資金源ですね。この件については今後とも皆さんの絶対の協力がほしいと思います。

山 本 やはり他のクラブのご協力もありましたし、本当に成功してよかったと思います。

司 会 もう一つ資金獲得の方法としまして、ゴルフも協力していただいているようですが、その辺もお聞かせ下さい。

江 口 ゴルフの収益金は大きいですよ。

3月の7リジョン、3ゾーンのチャリティゴルフ大会がありました時に153,000円はいりました。

山 本 桜の参加者がまた少ないようですので、出来るだけお忙しいでしょうが、参加をお願いします。

司 会 ところで話は変わりますが、桜のドネーションは非常に多いということですが、年間例会のドネーションはどれくらいですか。

江 口 今期は18回で2,703,179円です、1回が150,000円位ですね。

会 長 強制されているのではないかと、他のクラブの方がおっしゃったとか聞きますが、強制ではありません。

自分から進んでドネーションされてるようですね。

江 口 チャリティゴルフと納涼大会と宮尾すすむショー、チャーターナイト、オークション合わせて、6,878,600円になっております。

全 員 すごいですね。

司 会 今後共アクトをするためには資金が必要です。

どしどし素晴らしい企画をしていただきたいと思います。

糖尿病予防の推進についての卓話

司 会 今年の2月に行われました、『糖尿病となかよくつきあう』の講演会に一般の方々の参加もいただきました。その反響はいかがでしたか。

山 本 ライオンズでは糖尿病は勉強という形で義務づけられているんです。

会 長 最初は例会の卓話と考えてましたが、増え続けている糖尿病を少しでも予防出来ればと思い一般の方々にもよびかけ講演会としました。

糖尿病がいかに怖い病気かが良く分かったと思います。糖尿病がひどくなると失明するので視力ファーストの一環として糖尿病週間があるのです。

入 江 先生のお話を聞きまして次のことは、しっかりと把握しておきたいと思いました。

①糖尿病とは、体の要求に見合うだけのインスリンが、肝臓から分泌されないために、栄養素が健康な人のように調子よく利用されないで起こる病気ですね。

②糖尿病は、糖尿病そのものによる異常のほかに色々な余病が起きるので
すね。腎臓や目や、糖尿病特有な病気が起こりやすいほか脳や心臓や足・動
脈硬化・高血圧腎盂炎・膀胱炎・おでき・歯槽膿漏などの細菌感染による病
気、神経の障害なども、起こりやすい病気だと知りました。



司 会 そうですね、スライドを通して、病気の説明を聞くうちに糖尿病のこわさが
分かりました。これからも、真剣にとりくまねばならない問題ですね。

中学生の作文募集について テーマ“私の家族”

司 会 今回中学生の作文を募集しましたところ277点もの沢山の応募がありあり、大
変嬉しいことでした。そこでなぜ“家族”というテーマになさったかお聞か
せ下さい。

会 長 今よくよそのシンポジウムは、「住みやすいよい社会をつくる為には」等の
テーマで行われていますが、よい社会をつくるのは誰なのか。次の世代を担
うのは、子供達である。それでは子供達をしっかりと育てなければいけない。
その基盤になるのは、家族であるということです。中学生を選びましたのは、
小学生では幼すぎる。高校生では受験で忙しい。今一番多感な時代を過ごし
ている中学生は、自分の家族をどう見ているのか。そして、どんな家族を理
想としているのか。その家族は地域福祉とどう関わっているのか。それらを、
一度調べてみてはどうでしょうか、という皆さんのご意見で、これを募集致
しました。

司 会 それでは、ここにお集りの会員の方の中から、審査された方に御意見を、お

伺いしたいと思います。審査委員長は福岡市教育委員会指導第一課主席指導
主事の陣川桂三先生にお願いして22編を選んでいただきました。その22編を
私達のクラブの審査委員が選考にあたったわけです。

山 本 最終的に選ばれました22点を読ませて頂きましたが、今の中学生は、よく周
囲を見ていますね、皆さんとても素晴らしかったのですが、そのなかでも障
害者のお兄さんと二人での生活を、とても明るくとらえて書いてありました
のが、非常によかったと思いました。又、「2人だけでも家族である」と言
う考えが印象的でした。で皆さんの文章を一冊の本にまとめて、皆さんにも
読んで頂きたいのですが、プライバシーの事も書いてありますので、今、入
選された方々に公表してもよいでしょうかと、お尋ねしている所です。

長 私も読ませて頂きましたが、お年寄りとしっ
かり暮らしていらっしゃる方があり、これから
の高齢化社会の在り方にも通じる事だと思いま
した。おばあちゃんが躰をきっちりしてある
のに、本当に心強く感じました。



長 寛子

山 下 私も30年40年後の社会は、案ずることはないのではないかと、あの作文を読
んでいる限りにおいて感じました。お父さんの転勤の事が、書いてある所で
は、私自身孫が何人もおりますが、娘の主人が沖縄に転勤になれば、家族全
員一緒に沖縄に行くと言うように、家族が絶対に離れて暮らしてはいけない
という主義でやってきたものですから、あの作文を読んで、アー私は間違っ
てなかったのだなと思いました。又、今住宅事情とか、公立学校、私立学校
等色々なひずみがありますが、やはり、私も会長の理念のように、家族が一
番の基本ですから、これからのお父さん、まして教育ママと言われているよ
うなお母さんが、よくかみしめて欲しいと思いましたし、先は非常に明るく
感じて読ませて頂きました。

飯田 私もお父さんが自分の主義や信念をきっちりと持っていってらっしゃって、誰が
何と言おうと家族と言うのは共有する時間を少しでも多く持つべきだと、そ
して、お母さんと娘の関係等、親が本当にしっかりしないといけないと言う
事をしみじみ思いました。

入江 私はまだ作文は読んでおりませんが、私は自分の中学生の時の事を考えまし

たら一番その頃は自我が芽生えるときでしたので、この度のように自分の内面を表す機会があれば、つまっているものが、吐き出せるんですよね、そういう機会が多い方がよいと思います。

全 員 本当にそうですね

会 長 それから、私が一番感じたのは、子供達が家族という形にとらわれていない。家族とは両親がいて子供がいて、それが家族なんだという事を、全然思っていないという事です。お母さんと2人でも家族、おばあちゃんと2人でも家族、家族というのは心の問題であるというのをしっかりとらえている。その辺は中学生にしてすごいなと思いました。

江 口 私も皆さんと全く御一緒の感想でございます。

司 会 何か他に内容でなくても、家族というテーマについて、御意見はありませんか。

江 口 表彰式の時には父兄の方又学校の先生も、一緒についてこられて、とても喜んでいらっしゃいましたね。



L 飯田 そうでしたね、両親についてこられた方もありましたね。

会 長 作文集が出来ましたら、私共桜Lの方には全員くばりますが、又、学校にもお届けする予定です。

司 会 この作文募集は今後もずっと継続なさるのですか。

会 長 先日計画委員会で、お話しましたが、まだはっきりとはしておりません。只本当は時代時代によって家族を見つめ家族がどのように変わるのかを10年間見つけると、とても良いと思います。家族の推移とか、家族に対する物の

考え方がどうなのか等、時代と共にずっと長期で同じテーマで続けるとよいのですが。

L 山下 私のお友達に作文をちょっとお見せしました所涙をうかべて読んでおられ、私もぜひ作文集がほしいと言っておられました。

会 長 来年は「世界家族年」なんです。新聞社の方からも、これを先駆けて今年なさったのはすごいですネって言われました。

全 員 それにしても本当にいい企画でしたね。今の時代の的を得ていて素晴らしかったと思います。

山 本 そうですね。このような結果が今期のアワード13個も頂くという荣誉につながったと思います。

会 長 この荣誉は、本当にみんなの力の結集ですよ。

司 会 それでは会長のお言葉をしめくりと致しまして、座談会を閉じたいと思います。皆さん長時間にわたっての御協力ありがとうございました。

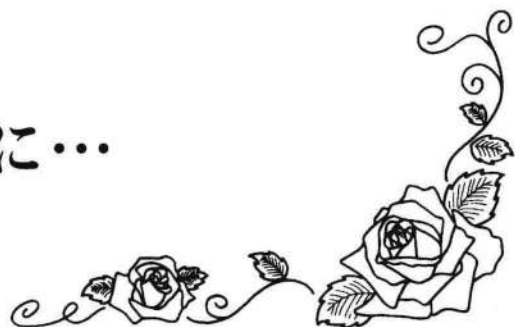
今期桜クラブが頂きましたアワードです。

第39回 年次大会アワードクラブの部



- ・グッドスタンディング賞
- ・会員増強クラブ賞
- ・出席優秀クラブ賞
- ・アクティビティ(金銭奉仕)優秀クラブ賞
- ・アクティビティ(労力奉仕)優秀クラブ賞
- ・アクティビティ資金獲得優秀賞
- ・ガバナー特別賞
- ・PR賞
- ・国際親善貢献クラブ賞
- ・YE賞
- ・地区大会登録賞
- ・LCIFクラブ賞
- ・退会ゼロ100%賞

おもいのままに…



『ライオンズ奉仕と仕事のはざまで』

L 安藤 皇

？ン十年ぶりで章を書くことになりました。手紙、ハガキ（年賀状）すら書いたことのない横着者の私が…

先日、東京出張の際、運悪く（失礼！）松井ライオン会長と飛行機便がご一緒になりました。「私は桜ライオンの方と会うと自然に“済みません”という言葉がクセが付いたように口から飛び出す心境になっている今日此の頃なんです。」という話をしたことから、「その気持ちを素直に書いてみませんか？」と言われ、お引き受けするハメになってしまいました。

田中ライオンより、少しの時間が取れたらボランティアをしてみないかと言われました。その頃は今より時間もあり、仕事を持っていたら皆様の仲間に入り、自分を磨き、人をみつめ、そして自らを向上させていくことが出来たらと思い、不安はあったものの入会致しました。

入会して初めて出席したときの驚き、感激は、今でもはっきりと覚えております。まずは、皆様が大変オシャレでいらっしゃる。それも若い女の子とは違って、お一人お一人が自分を知ったオシャレをされ、イキイキとしていらっしゃる。そして第一に言葉が生きている！仕事を持ち、自分をみつめ、そしてライオンズ奉仕と言う一つの目的をここに持って皆で話し合い、笑い、前に進んでいく…

私はどちらかと言うと慣れると地が出て我がままになるのですが、慣れるまでなかなか自分から輪の中に溶け込めないところがあり、まして人前で話をするなんてことは殊更苦手。皆様の発表されるお姿は羨ましかぎりでした。ドキドキされていないのかなぁと思いつつ耳を傾けて、ただ感心するばかりでした。入会してしばらくは説明される言葉の意味さえ理解できず、お一人お一人をみつめているだけでした。多少、話されていることが解る

様になってきた頃私自身が自分の仕事に追われる日々となりました。

婦人服の製造卸は、不況の前兆と同じような動きをする商売で、不景気になるとミニが流行すると言われた時代がありました。はっきりにそのとおりだと、今ミニを作れば良いわけですが、今日はこれと言った流行もない時代です。社会問題にまでなったバブル、一般的には、バブルは、不動産や株に大金を動かした人だけのことの様に思っていたのですが、若者からサラリーマン、奥様達まで財布を開かなくなってしまいました。食べるものはお腹が催促するのでそうそう節約するわけにはいきません。衣・食・住で一番締めるところは洋服です。新しいものは買い控え、あるもので間に合わせます。

三越を中心に中央に出している私の会社も、売り上げにブレーキがかかり、目が離せない状態になりました。時間に追われる毎日となり、例会の案内のハガキを横目で見ながら黒

板を見ると、ほとんど長期出張の日。欠席、欠席、又欠席。やっと時間が取れたと喜んで‘出席’にしていると、前日になって出張が入りTELで済みませんと断る。

この繰り返しの中、たまたま出席出来ても、その場に入り込めず、自分一人で話しも出来ない。またまた臆病神が顔を出してくるので。

…皆と一緒に時間が欲しい！仕事の時間とは違う空間を持ちたい！…お隣に座られた方と「お久しぶりです」の挨拶。「ダメよ、出てこなければ」の言葉にいたわりと励ましを感じながら、“よし、次も出席するぞ！”と家路ではなく、会社に急ぐ私です。

今後も出来る限り出席し、少しづつでもお役に立てる様に、焦らず、自然の自分が出せる様にしていきたいと思っています。少々若い分だけ、素直な耳で皆様のお言葉を受け止めていきたいと思います。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

「ボランティア」という言葉を考えるとき



L 三坂 万里子

昭和21年10才の夏の出来事です。

戦後の食料難時代、私共は公園を利用して家庭菜園を作っていました。毎日朝・夕の水やりは、私共子供の役割で水をたっぷりとかけないと叱られるのですが家からの水運びは子供たちにとって重労働でしたから時タインチキをしてしまいます。

雨が降るのがうれしくそれでも子供ですね翌日水をやり「やりすぎだぞぉ～」と又叱られるのです。

それでも何とか収穫の喜びを味わって又がらんぼうという気になっていました。

ある日の夕方両天秤に水の缶をさげて帰宅している私の前を足の悪い男の人が体をくね

くねしながら歩いていました。左右に大きく体が動き後ろから見るとまるで踊っている様に見える私は、つい真似をして男の人の通りに歩いていったのです。天秤の缶が、空になっているのでガランガランと音をたてその音に調子を合わせ踊ってしまいとても楽しい気分になって、今思ってもその時の気持ちは変な人の格好を上手に真似て面白いという気でした。

突然、その男の人が振り返ってとても恐い顔で、又今思い出すととても悲しそうな顔で「きさま、なんばしょうとかぁー、人ばバカにしょって!!」と云い私の腕をつかんでぐいぐい私の顔に自分の顔を近づけ「足の悪かとは、どうしょうもなかとぞ!!」と大きな声で云ったのです。私は何も声が出ず大声を出されたことと男の人から腕をつかまれたことでびっくりして立ちすくんでしまいました。

「すみません」と云ったかどうかもおぼえていません。いそぎ足で帰り風呂場でつかまれた腕をごしごし洗ったのをおぼえています。

その時は、見知らぬ男の人から体をさわられたということと何か自分は大変悪い事をし



御 神 火 祭

第1副会長

L 大 山 朱 實

九州は高千穂と名の付く所がいくつかある。ミヤマキリシマで有名な霧島山の高千穂峰がある。11月10日にはそこで天孫降臨記念祭、俗に云う御神火祭が行われた。高千穂河原の

たというはずかしさで頭の中がグルグルと回り家族のいる茶の間に行けませんでした。自分の部屋に入ってただじっと座っていた様に思います。

家庭を持ち、三人の子育ての中で登校拒否・校内暴力・いじめを経験しその解決の糸口を人と人とのかわり合いの中でみつけた時、知らない間に自分は罪を重ねているという反省も出来るようになり又、人の中で育てられた自分がいろいろな事に進んで楽しく出来る様になったと思えるようになりました。

ボランティアという言葉を知ったのは学生時代です。何か特別な人がする仕事、立派な仕事という印象でした。

今、あちらこちらでなされているボランティアの数々にとても感動します。生半可な事では出来ない事が多く出来るだけのこと、それも小さな事を続けていく事の様に思います。

ささやかな思いやりの心と、人を人としてみとめ大切にすることから出発したいと願っています。

古宮址を斎場として行われる祭りである。古式にのっとり御神火を炬火に移し焚きあげる厳粛な祭典なのである。私はなぜかこの御神火祭が好きで今年も又参

加した。
高千穂河原には参拝者が炬火をとりかこみ悠久の神代の時代をしのぶと云ったものである。山々には九面太鼓が響きわたり、まさに神人和楽の境地が印象的に私達の胸に伝わって来るのである。
ひととき私は俗世間の事をすっかり忘れ神様になった様な気分であった。

九州にはこのように、古代のロマンやメルヘンを秘めた所がたくさんある。所だけでなく、古式豊かなお祭りなど歴史をひもとけばきりのない程で、私の心はいつも旅をしたくてじっとしてはいられない。



心 清 浄

L 豊 原 範 恵

時間が経過して、一日が終る。時の中で私達は生かされている。毎日が、この繰り返して年を重ねる。同じパターンのリズムである様で、全く違う。宇宙には、さまざまな、生物、動物、人間が生存し、互いに共存共栄している。全世界から、見渡せば、ほんの小さな一点の範囲でしか、行動していない自分でさえ、記憶に数えきれない多数の人々との出逢いがあった。それぞれ個性があり、人生観も違う。或る出逢いは、喜びを、或る出逢いは、悲しみをと、多種多様な事柄を学ばせてくれる。年を重ね体験していく過程で、ふと立ち止まって、人間の生き方に問いかける。常に心を清く鏡のように透明でいれば、何事

桜ライオンズの会員の中にも歴史に興味を持っている人が何人かいる。

いつかその人達と共に、九州中をくまなく歩いてみたいと思っている。

私達はこんな恵まれた土地に生活していながら、この豊富な歴史について何も知らない人が多い様に思う。もっともっと九州を知って、九州人として九州にこだわって生きて行きたいと思うのである。

桜ライオンズクラブの会員はみんな九州の歴史に関して何でも知っているんだぞと云う様になったら、どんなにいいでしょうか？

皆さんで旅をしよう。歴史を学びながら…

も濁りなく写されるのだと。心はいつも動揺している。喜怒哀楽、信頼、不信感、自信、不安と、であれば、チャンネルを、喜びと幸せに切り換え、責任ある発言と行動をはっきりさせながら、明るい輝きを放し、その周囲を、煌煌と照らして、日々の花園にしたい。人の痛みを感じ、深さを測るのに一番必要なものは、心ではないだろうか。与えられた顔が違うように、苦悩も違う。

○苦悩は、如来の励ましなり

○喜びの種、悟りの種、煩惱を悔やむじゃないと、ある人から聞かされた
生きている間に、出逢った人を大切にしたいいきり良い時をすごしたい。



陶芸教室見学

Ｌ 入 江 恭 子

博多さくら園で陶芸教室が開かれるというので寄贈した陶芸窯の見学をかねて行ってまいりました。

御老人だけの作業というのではなく、中学生との共同作業です教室です。

核家族化して、学童、生徒がお年寄りと接する機会が少ないのと、老人ホーム側でもお年寄りを慰めようとして、地域の中にある博多中の生徒とのかかわりを持つという試みが始まりました。

まず、技術、家庭専攻の生徒30人とさくら園の住人とデイサービスに来ておられるご老人30人とが二人一組のペアになって陶芸教室

が開けられました。おしゃべりしながら、二人一個の焼物（コーヒーカップなど）を作る為、型に土を流しこむというものです。始めは恥ずかしそうにしていた生徒さん達もお年寄りから「難しいねー」とか、「こうした方がいいんじゃない」とか言われたりして、いっしょに作業しているうち、打ちとけて、お年寄りも作品が出来上って孫のようなペアを組んだ生徒にプレゼントするのを楽しみになさっている様子でした。

こうした青少年と老人との手と手の触れ合いから始まってやさしい社会が生まれてくるのではないのでしょうか。



はるかなりエベレスト

Ｌ 金 川 喜久子

山歩き初心者の私達5名（主人、次女夫婦、主人の友人）平成4年10月17日空の人となる。ネパール王国の首都カトマンズへ10時間に及ぶ空の疲れもなく、夜9時に着いた。空港はムーとする暑さ、外に出るとワットと人々に囲まれた。「どうしたの、どうしたの」と舞い上がってしまう。大人に混り7～8才を始め子供が沢山いる。荷物を運び、チップを稼ぐためだと後で知る。主人曰く「オイ、コラ、家へ帰って勉強せんか、俺は少年補導員ぜ」暗闇の中ホテルへと急ぐ。よく見ると人が歩いていたり牛が道に寝ている。外灯もなく静かに動く生き物達。朝、外に出てみると王宮よりまっすぐ延びた広い道路沿いにホテルはあり、道を30年前の日本車が排気ガスをまき散らし走っている。人、自転車、牛、犬達と皆ほこりだらけの様にみえる。一步ホテルを出ると物売り、物ごい、子供達が寄ってきて、

それぞれ仕事を始める。最初は丁寧にお断りしていたが、その内に無視する事にした。ネパールには東西2,800kmに及ぶ世界の屋根ヒマラヤがあり、首都カトマンズは高度1,300mの盆地にある。奄美大島と同じ緯度にあり、昼間は暖かい。多民族国家で立憲君主国、宗教もヒンズー教、仏教、ラマ教があり、3つの融合に依って作られた仏像、寺院が多くみられる。経済はインド人が握っており、国の経済もインドに依存している。一日目は市内観光へ。目玉寺で有名なボータナード、四方に大きな目が書かれ、悪い事をしない様に見張っているそうだ。また旧王宮から見下ろすカトマンズは、木の緑、屋根の赤、入りくんだ道、行き交う多くの人、中世ヘタイムスリップした様だ。商店の間口は1間位で狭く、内は薄暗い。曲りくねった道の両側にビッシリ並んでいる。肉屋は羊の頭を店頭飾り、売



台の上にごろりと置かれた肉にはハエがたかっていた。野菜や果物は道に並べて売られ、どれを見ても日本では売れそうにない。そのなかを人々が、砂ぼこりをたて行き交う、排気ガス、生ごみのにおい…。十分に街を堪能し、ホテルに帰った頃はのどが少し痛かった。二日目、今日はルクラ（登山基地）へ飛ぶ日。しかし今日は乗れないと言う。それではと、旧市街へ行く事にした。パシュパティナートはシバ神を祀った寺院。ガンジス川に注ぐパグヤティ川のほとりに立つ。川は生活の場であり死者を葬る所でもある。火葬があっていた。死体焼場で燃える火の中、今天国に召されんとしている人、向かいの土手には大人、子供、観光客がボーッと焼け具合を見ている。たぶん灰になりあの川に流されるのだろう。川下では女性が食器を洗い、洗濯、洗髪、子供は水遊びと楽しそうにしている。人はどんな環境でも生きて行ける。又死者を葬っているというオドロドロしさもなく、今、何処かで生まれ、何処かで死ぬ、輪廻転生を考える。三日目、今日こそルクラへ、一日中、空港の狭い待合室で待つ。登山への人達で混雑したロビー、ほこりと物売り「お前達は今日の便には乗れない。」「なに！予約があるのに、しかも一日延ばしたのに」結局またホテルに戻る。強引に言わないと明日も一日空港で過ごすことになる様な気がする。四日目、今日こそルクラへ、さすがに私達の態度を察したサーダ（リーダー）が空港に着くや、早くチェックインをとせかす。乗れるぞ！喜びいさんでチェックインして搭乗口へ、待つこと4時間。18人乗り双発機の席は私のおしりで一杯、ア

メリカ人など子供のイスに座っているみたい。離陸前にスチュワーデス（らしき人）がアメ玉と綿を配る。アメ玉をしゃぶり綿を耳に詰めろと指示をした。上下左右にゆれながら見る風景のすばらしさ感動した40分、やっとルクラ空港へ「え！あれは空港とは違う。と思う…」「断崖絶壁に向かって巾20m長さ500mの石がごろごろしている農道の様な道があり、家も近くにある、道の先は深い谷。しかし飛行機は、谷の方から着陸態勢に入っている。「うそ！これ滑走路!?キャ！」着いた時は恐怖を通りこし笑い出していた。昔、ヒラリー登山家の娘が、この山に激突して死んだそう。見れば壊れた飛行機の残骸がその尽放置してあり、そのプロペラにウェルカムと書いてあった。ルクラ（標高2,800m）はヒマラヤトレッキング出発地のため、多くのトレッカーがポーターと落合う村だ。私達も昼食を取り、エベレストを見んと出発する。私達5名、サーダー（シェルパのリーダー）、シェルパ、キッチンボーイ等7名合計12名と荷を運ぶゾッキョ（牛とヤクのハーフ）2頭で、ルクラーバグディンモンジョーナムチェ（3600m）ージャンボチェークムジュンまで5日間、目的地ゴーキョピーク（5,400m）まで片道5日間の予定。道は生活道路のためよく整備されているが、2人並んで歩くのがやっとの道巾、山奥へと荷を運ぶのはゾッキョか人力のため、女、子供、年老いた人まで背丈以上もある荷をかつぎ足早にゴムゾウリで追越して行く。地元の人、登山家、ポーター、ゾッキョと入り乱れ行く道から見上げると神々しい雪をかぶったヒマラヤの山々、木々の緑、

足元はゾッキョのフンを踏め様に…。山での第一夜は谷間にへばりついて建った小屋に泊まる。寝袋に入りベット（単なる木の台）へ。囲りでチューチュー騒ぐねずみの声を聞きながら深い眠りに入る。朝6時、洗面器パイの湯で歯磨き、洗顔を終り一日のスタート。トレッキング開始8時。登り下りの激しい山、長いつり橋。又登り下りる。「下り道になると何か損したみたい」高山病が少しずつ出る。心臓が早打ち、ハーハーと呼吸が早い、頭がボーッとしてくる。第一の目的地ナムチェ村が見えた時は喜びの声が上がる。昼食の40分休憩だけで9時間近く歩きっぱなしだった。夜はテントで寝る。ゾッキョのフンの臭う中、何処からか聞こえる歌声、無数に輝く星、雪を冠り夜空に浮かびあがった峰々…。ナムチェ村は高山に体を慣らす為2、3日滞在して近くの山に登る前進基地。私達もここを基地に500m登った所にあるエベレストビューホテル（日本人が作った）へ体を慣らしに行った。ここからの眺め！間近に見えるエベレス

ト（8,848m）山頂に雲をなびかせ、太陽に輝いている姿、これを取りまく峰々、アマダブラム、コンテガ、ローツェ、ヌブツェ、タムセルク、やった！感激に声もなくとり肌がたつ。朝が近づくにしたがって赤く染まってゆく山々、自然が織りなす美しさ、輝き、しっかり心に留めておこう。少しも目が離せない。ここに建っている喜び、生まれてきた喜び、神への感謝…。高山病がだんだんひどくなる。夜も息苦しく熟睡できない。若い二人は食欲がなく下痢もする。これ以上前進は危険と判断、中止する。しかし満足ある勇気ある撤退だと思う。世界一神々しい山と対照的な町の排気ガス、物ごい、強い子しか生き残れない生活の貧しさ、そのなかにも世界の屋根ヒマラヤに負けるとも劣らない、日本人が既に忘れていた微笑と、人々をやさしく迎え入れるもてなしの心、そういうやすらぎの国を体験し、文明というものを考えさせられた貴重な旅であった。又チャンスがあれば訪れたい魅力を持ったそんな国であった。



「家族」の作文を読んで

上 齊 藤 敬 代

「家族」というテーマの応募作品の22編を読ませていただきました。心に残ったのは、「家族の一人へるさみしさ。」木山洋君。「僕が好きな兄。」剛典 服部将典君「ジェニーに教わった事。」久留島さやかさん

の作品です。まず「家族の一人へるさみしさ。」の木山君は、おばあちゃんの入院から死を通して、暖かいふれあいが語られてあり、家族の、おばあちゃんへの愛情と、心からの感謝がつづられ、一人の家族の死を通して、木下君の心の大きな成長がみられました。2編目

は、「僕の好きな兄。」剛典。を書かれた、服部将典君の作品です。障害をもったお兄さん剛典君のことと手術の事が、かゝれてありますが、障害をもった剛典君によって、弟の将典の心が育てられていっている様子、又家族が本当に剛典君を大事にしている様子がよくかゝれてあり、痛みを家族が共に背おいながら、一つにされてあり、この剛典君によって、強い家族のきずなが、作られていることを感じました。3編目は、ジェニーに教わったこと、久留島さやかさんの作品です。夏休み、ホームスティをしたジェニーさんとの生活が書かれてあり、一緒に生活をしている間に、血のつながりは、なくても、心から信じあえるのが、家族ではないかという思いになっていく様子がかゝれてあります。これからの国



敗戦時の私の体験

L 長友 美智代

太平洋戦争の末期、日ソ不可侵条約を破ってソ連は満州（現中国東北地区）へ侵攻し、在住していた日本人の多くは生死をさまよい、その引揚は苦難の連続でした。

日本敗戦の日、即ち昭和20年8月15日、私は北満州チチハルに住みソ連軍の侵攻から南へ逃れるため黒龍江省チチハル駅構内の避難列車の中にいました。情報で戦争は終わったから避難せず、我が家へ戻ってよいとの指示で、母、妹二人の四人で重い荷物を引きずりながら我が家に戻ったものでした。当時父の職業

際社会、又は、核家族の中で、ふれあっている隣人を愛する愛に気づかれた事は、とても、すばらしいとおもって選ばせていただきました。

普通の家族の普通の生活をしている人の中からも、良い作品がたくさんありましたが、22編を読ませていただいて、心に残る作品は、悲しみや、苦労とおもえる事の中に、その人の心を育てる宝が、かくされてあるようです。

そして、この事を通して、自分の家族に、目をむけ、大事にする事が出来たら、若い時に家族の大切さに、気づいたら、いい人生を送れるだろうなあ！と思いました。全編にいうことは、中学生が、お父さん、お母さん、家族のみんなを、心から愛しているという事です。全員に、大きな拍手を送りたいとおもいました。

は裁判官でしたがソ連の参戦と同時に戦争に参加、私たち女だけの官舎生活でした。我が家に戻ったものの、敗戦国民として、これから一体どうなるのか、不安生活の始まりもありました。日本軍の撤退と共に治安は次第に悪化し、日本の統治から開放された中国人たちは、一部扇動者たちの誘いに乗って日本人の家を次々に襲い略奪を始めました。そんな或る日、私たちと親しくしていた中国人から我が家の襲撃計画を知らされました。私たちは持出せる限りの生活必需品を持出し、知

人宅へ身を寄せ、恐ろしさと悲しさに身をふるわせ乍らその夜を過ごしました。翌日襲撃された我が家は、家具、畳、便器に到るまで略奪され見る影もなく廃虚と化していました。その暴挙のすさまじさは、筆舌につくし難いものでした。私たちは住む家も家財道具も失い仕方なく日本人の集まる施設に移り住むことにいたしました。その同胞の人々が私たちを温かく迎え入れて下さり、やっと人心地を取戻し今や異郷の地と化した、この地での生活の不安の中で一抹の喜びを感じることが出来ました。しかし治安は更に悪化し、ソ連兵が拳銃を持って押入り物品を強奪したり、女性を襲うと云ううわさもあり私も男の様に髪を切りよごれた顔にするなど哀れな生活でした。その様な恐怖の日々でしたが中国内では、共産人民軍と中華国民軍との戦争が始まり、毛沢東の率いる共産軍が次第に勢力を増し勝利となりました。共産人民軍は過去の日本の統治に加担した人を裁く人民裁判を始めました。要職にあった日本人を捕らえ大衆の面前で統治時代の罪状を一方的に述べ直ちに銃殺をすると云うむごいものでした。日本国策に従って国のためと云う誤った行政を施行して来た日本の一人である父も度々行方を探して軍がやって来ました。私たちは知る由もない事でしたがその時父はすでにソ連軍との戦いで命を失っていたのです。父の同職の知人は人民裁判へ引出され街を引きずり廻されたあげく銃殺とされたのは悲しい出来事の一つでした。冬の到来と共に零下何10度の寒い冬の中で家を失い病に倒れ次々と凍死して行く姿も哀れでなりませんでした。私たちは残った

持物を売って僅かな食糧に変え、生きるために一生懸命でした。月日の経過と共に混沌の治安も中国軍の規律の回復と合まって好転のきざしが見え始め、街の広場に青空市場が出来、物と交換したお米でお餅を作って売ったり生きて行くために人々は懸命に努力し少しずつ明るさを取り戻してまいりました。敗戦の日から一ヶ月味った事のない苦難の日々と直面しながら生きている実感を持つことができました。その頃から治安当局と帰国の交渉も出来たのでしょうか毎日の様にチチハル駅から引揚列車が発つ様になりました。私たちもいよいよチチハルの地を発つ順番が廻って来ました。私の人生の中で最も喜びと悲しみの交差したチチハルの街でしたが一日も早く帰国したいと云う想いと、生死不明の父を残して去る複雑な想いを列車に乗っても断つことはできませんでした。只私たち四人が健康で一緒にいる事が出来たのは幸運としか云いようがありませんでした。ハルピンを経て松花江に近づいた時、鉄橋はすでに破壊され列車は進むことが出来ず人々は線路にそって歩き始めました。この河を渡れる場所までは30キロ近くあったと思います。集団から遅れない様、疲れた体にむち打ち途中手に持った荷物を一つ又一つと捨てながらやっとの思いでゴムボートのある渡し場へ到着しました。巾広い河を渡ったものの列車も駅も人家もなく野原の中で、いつ襲って来るかも知れない暴徒を恐れ、女、子供を中へ男性が外側を囲って輪になって野宿をしました。何日位だったかはよく覚えておりませんがやっとな列車が来た時の喜びは今でも忘れられません。列車は屋

根もトイレもない貨物車で埃まみれの車上でしたが日本へ一歩でも近づいている喜びと希望で苦になりませんでした。やっと港に近い錦県に着いたのはチチハルを発って二週間もたっていました。1000キロを越える道程を、列車を乗り継ぎ又暴徒の危険から身を守り乍ら徒歩で歩き、川を渡り満州南岸までたどり着いたのは粗末な馬小屋の宿泊所でしたがコーリヤンごはんやさつまいもの食事に生きかえり新たな希望を持つことが出来ました。それから一週間位後にコロ島の港からアメリカの貨物船で博多港へ引揚げることができました。



白いアオザイの群

L 油 布 征 子

4年前の11月、二週間ばかりボストンに滞在していた。丁度大統領選、ブッシュ氏とデュカキス氏の戦い真只中。まっ黄色のいちようの葉が舞い落ちるクインシーマーケット広場。ブルーに白抜きで各々の名前が書かれたブラカードを持ち、口々に候補者の名を呼びながら多勢の人が集まって来る。これから両氏の街頭討論演説があるという。これはいい処に居合わせたぞと、娘にデュカキス氏のブラカードをもらってこさせ（当時デュカキス氏がマサチューセッツ州知事で娘も住んで居る事だし、何かのご縁と思い）私も大声で、デュカキス、デュカキス、と呼びながら、人の群れの中にいた。

両氏の演説も終り、人だかりが解け始めた

チチハルを発って一ヶ月家族揃って日本の土を踏んだ時、自分たちの国、胸を張って生きることの出来る国、そしてその土地に立っていると云う熱い想いに涙を隠すことはできませんでした。今40年を経て、あの苦難の日々を想い浮かべながら、いまだに世界の各地で戦禍に生活を失って行く人々の悲惨な姿をテレビで観て、むなしさを禁じ得ません。日本は過去の戦争を反省し、私達はこの日本の平和と自由をこれからの子孫に語り継ぐ努力を失わない様にいたさねばならないと思っています。

頃、隣に居た中年の紳士が親しげに話しかけて来た。私も笑顔で挨拶だけはかわしたが、その後の早口の問いかけは理解できず、娘に目で合図すると、困った顔の母親を救うべく、娘が雑談の相手をしてくれた。（英語力の弱さを反省）その帰り道、娘いわく、あのおじさんアジア系の顔はみな同じに見えるんだって、と笑いながら、20年前ベトナムにアミーで在駐していたが今一度旅行者としてベトナムを訪ねてみたいと話していたと言う。その話がきっかけで娘とベトナムの話をしているうち、私もベトナムを訪ねてみたいと思う様になった。香港にベトナム人の友人がいるが、彼女も終戦と同時に母国を出て、今は香港、オーストラリアと活躍している。様々な思い

を残してきたであろう彼女の母国をぜひ訪ねてみたいと思っていたが仲々その機会を得ずにいた。昨年11月ようやく実現。日本・中国・香港・オーストラリア人の計4名で四泊五日の予定で出かけた。ホーチミン（旧サイゴン）空港到着後、空港内の撮影禁止、持ち込む物、お金、時計の種類等を記入。2時間後ようやく空港の外へ出た。30度位の暑さだが湿度が高くベタベタする。喉をつく様なほこりっぱさ。友人が頼んでおいてくれたボンゴ車が来た。レンタル料が高いから車は2日間にしたという（運転手付きで6千円）クーラーが付いている車は少いから高いという。あわててそれに乗り込む。街の中、車はあまり見かけない。ボロボロのバス、自転車、バイク、それにシクロ（自転車に人力車を付けた様な乗物）車のレンタル料が高いのはうなづける。道いっぱいに自転車、シクロが走るなか、クラクションを鳴らし続けながら走る。決して快適な乗り心地ではない。道路は一応簡易舗装はしてあるが、雨が降ると土が流れて、晴れるとほこりっぽい。修理屋さんが道の両側に2m間口位で軒を連らねている。足踏みミシン、自転車、家電（テレビも国営放送が1局あるとの事）などの修理屋さんだ。すぐ両替をと思うが、銀行など見当たらない。彼女が連れて来た両替をする人が大きな新聞紙包みをいくつか持って来た。円からの両替は出来ないので一応米ドルに両替して来てたので、100ドル（1万3千円）を出し両替を頼むと、弁当箱2つ位の大きさの新聞紙包みをドンとくれた（130万ドン）お札が何枚あるかわからない。10万ドンの札の束が13個。急に大金

持ちになった気分、「これじゃあ10万円でも両替しようものなら乳母車持って来なきゃあね」と笑ったら、1週間それだけ持てれば充分だからそれ以上両替すると友人が言う。ホーチミンでの一般の人の月収2,500円～3,000位で中国系の処で働く人は少し高く4,000円位だとの事。

途中、マンゴーを買おうと、ボンゴ車のドアを開けた途端、6・7才位の子供達が、くしゃくしゃの帽子を広げてワッと集まり、そでを引く。笑顔のかわいい物乞いである。

日本の終戦直後の「ギブミーチョココレート」が頭に浮かんだ。戦後19年を迎えたベトナム、ホーチミンの現状だ。（戦後19年の日本は東京オリンピックが開催され、新幹線（東京ー大阪）が走り出した）

翌日、ぐったりしながら、彼女の友人（広東系の人）がやっている街角のコーヒー店らしき処でアイスコーヒーを注文した。美味しい！おもわず言った（ベトナムで意外に思ったのはコーヒーとパンが非常に美味しいという事、フランスの領土であったという歴史を持つからかも知れない）おかわりを注文、と思ってたら、ボンゴ車の運転手さんが「コーヒー一杯の代金で一週間分の食費がまかなえる」と言う。私は改めて、残りのコーヒーをすすり込んだ。

旧ソ連からの援助が断たれ、電力不足であったというが、今中国から様々な物が入っている。電力不足も少しは良くなっているという。国外へ出ていた人達が帰りつつあるともいう。又、旅行者相手のホテルには、ディスコ、カラオケ、サウナ、マッサージルームと至れり

つくせりの処もある。

ほこりっぽい赤茶けたホーチミンの街中で、毎朝7時頃。夕刻5時頃。まっ白なアオザイに黒いズボンの女子学生が列をなして、群れをなして、自転車で通学して来る。その様子は、ハッとする程美しく、印象的であった。

まさに平和の象徴に見えた。ベトナムの女性は頭が良く、働き者、そして、日本女性に似た気質を持っているとか。この女性達が、この国を変えていくのでは、と思えた。そして、帽子を広げて物乞いする子供達も見かけなくなるかも知れない。早くそうなってほしいと思うのだが。

家



「華と音による ジョイントコンサートを終えて」

L. 浜 田 一 昭

天照大神様から始まった「枝を折って挿す」という生花の起りから藤原時代に繁栄した日本の伝統文化と時代のうつろいと共にいけ花の形式も変って来ました。

本年は 私の指導四十周年に当り門下生の将来を考え「たんばの会」を結成し、過日早良市民センターで「花・時・流」をテーマで、「華と音による」ジョイントコンサートを開きました。花を活ける形態を、四季と時代に分け、童謡・シャンソンと服装もパンツルックや万葉人のおすべらかし等と、アイデアに入場者も楽しめました。又八米のスペースを「乙女の祈り」や「エリーゼのために」のメロディを耳に聞きながら、十五人の会員が

宇宙飛行士の毛利さんが「宇宙から地球に国境線は見えません」と言われたが、今だに地球のあちこちで、争いがおきている。人を思いやる気持、どここの国の人も同じものを持っている。ただ生活習慣の違い、言葉の違い、宗教の違い等で異国を感じ戸惑いを感じる。これが難しいのである。他国へ行って日本の良さを感じるが「私は日本人です」と胸をはって言える日本であってほしいと願う。来春、再びベトナムを訪れたいと思っている。又あの白いアオザイの少女達の群れに会えるのを楽しみに。

やる「竹と花」の七分間は時間との勝負でハラハラした思いでした。「ホットタイム」では、琉球舞踊のあでやかな姿や、日本舞踊やダンスの模範演技の賛助出演や、我が桜LC有志七人による宮廷舞踊は、いつも見慣れた顔が真白のドレスに乙女と見まごうばかりの美しさに、六百人の観客からため息がもれる程でした。私の会のためご協力戴き私の人生にすばらしい思い出を添えて戴き誌を借りて心より御礼申し上げます。



雑 談

L. 野 田 慎 子



私は桜ライオンズに平成3年8月に第2期会長浜田一昭様の推薦により会員として今日迄ライオンズ精神に則り、微力ながら社会奉仕に努力させていたゞきました。先日突然に何か書いて下さいライオンズの本に記載致しますのでとのお知らせに平素怠け者の私にはピンと来るものが全く無く困り果てました。いろいろ考えている内に長年ご指導受けました能の事を思い出しペンを取る事に致しました。私は昭和53年に二つの会社を（エレベーター据付工事、空調設備工事）経営していました主人が急死（心不全）致し、一変して会社、社員、得意先、子供等が肩にのしかかり主婦の私には目前真暗でした。その時能の道を指導して下さい京都にお住いの重要無形文化財保持者河村慎二先生は私の師匠で誠実な先生の教える古典伝統の美、能楽に巡り合い今日迄続いて能の心と同じで一生果てないその道へ専念すれば仕事にも道が開ける事だと決心致し社員と一丸となり努力して参り現在会社も順調に運んでおります。それに依って先生の教える伝統芸能と生涯学習の一部を掲載させていただきます。能とは日本の誇る世界最古の現在演劇で森羅万象精神世界の全てを舞う人に凝縮させた600年の伝統芸能である。美しさ、華やかさ、幽玄壮重気迫の厳しき等「日本の美の結晶とも云われる」命には終り

あり、能には果てあるべからずと一生涯学習である。甘やかされた修養では感動を与える様な芸にならないからである。謡は大きな声を出して謡うのでお腹がすき健康にととても良く、雅びの心となり、和やかに気分爽快仲の良い友も出来とても良い趣味である。昨日を悔まず、明日を恐れず、今日生かされている事を喜び、天地人之の感謝を忘れず、力強く明るく、一期一会の心で生涯学習する。物も心も豊かな美しい日本となる事を心より祈るものである。以上の如く先生の教えに私は何時も感謝し見習って半生期を楽しく過し私の心の友として一生能楽の道を学び続けたいと思います。以上





“反省”ライオンテーマ

Ｌ 長 寛 子

人前では喋れない・ヒゴ訛が強い等々と欠点の多い私が、ライオンテーマの役をお受けしたのは、例会には必ず出席出来る自信があること、黙って仕事をすればいいから……と、容易に考えてのことでした。

蓋を開けてみますと大変!! 例会が始まる頃にはパニック状態になって、第一例会のローソクを寸前まで忘れていたり、テープの声が出てこないで困ってしまったりと、数えていくと指が足りない程です。

もう一つの大きな反省は、例会の席作りの事。委員会別に並んで、打ち合わせや、相互意識を高める為の日。新しい会員を古い会員

の横に座ってもらって、少しでも早くライオンズを理解して、楽しく例会等に出席出来る様に持ってゆく。

一度位親ライオンを囲んで例会に出席する日も作りたかった。

どれも私の配慮が足りなくて出来ませんでした。

九年前に大病を患いそれからは拾いものの人生と思っています。

私だけのためではなく、家族のためだけではなく、ほんの微々人様の役にたった生き方がこのライオンの中で出来れば、反省、反省も又愉し。



人を信ずる

Ｌ 国 友 千恵子

人間を理解することは、容易にできることではない。

保護司になって、5年になります。
何か社会に奉仕できるものは、と考えると、里の母が、80才の定年まで、保護司を、勤めていたことに気付き、私にできるかな、と、不安に思っていました。丁度そのころ地域の方々から推薦を受けましたので、思いきっ

てお引受けすることにしました。

特に現在の、複雑な、社会情勢や、人間関係の中で、家庭環境や、家族の、きずなが失なわれかけた、愛情を、しらないで、育った青少年を、理解することは、むずかしく、一度や、二度の面接では、お互いが、緊張しているから、調査書で、本人を把握して、対象者の気持ちになり、共感できるよう、心掛けて

いる。

又少年の場合、対象者との年令の差で、物の考え方、見方、価値観、又判断力などの、違いがあり、話し合っても、なかなか、対等にならない。

何か、一つでも、興味があること、関心があることが解ると、心ゆるしてくれる。

努力の、かいあって、世間話でも話せるようになると、次回の来訪も、苦にならず、心待ちになり、リラックスして、ありのまゝを語らせるよう、雰囲気作りをします。

本人の、ところを、思い、背負っている、重荷に、心して、話をまず聞くこと、説教はしないようにしている。これは、施設において教育があり、遵守すべきことを、常に指導されているので、耳にたこと思っている。

親子の場合でも、おしつけては、いけないお互いの信頼関係が、できるようにするには説得はさけて、本人と話し合って、1つ2つ約束を決め、守らせることにしている。

時には友人を連れて来るようになり、仕事の世話をします。信じあえるようになると、だんだん真面目になり、目がいきいきと、かがやいて顔が明るくなり「目がきれいになったよ」と言う、うれしそうに、微笑む。本人は、自信がついたことに感じうれしそうに喜ぶ。

これが私の満足感であり、報われる。

対象者が、結婚して、その主人からの手紙です。

前略

初めて、お便りします。

先日は、とても参考になる本を、送って頂

きまして、ありがとうございます。

妻共々、楽しく読ませて頂いております。

話には聞いて居りますが、先生には、大変お世話になり、心からお礼申し上げます。

又保護司の件でも、大変気を使って頂いてありがとうございました。

一緒になるに際して先ず最初に、年令の差があり過ぎ、このまゝ一緒になって、大丈夫だろうかと、不安になりました。

でも幸い親が近くに居り、一ヶ月半くらい同居してもらいました。

「上手くやってくれるかな」と案じて居りましたが、「素直な、いい娘だね」と親も、ほめてくれ一安心しました。

7月14日私の父の三回忌を、利用して、陽子を、親族全員に紹介した所、皆んなで、喜んでくれて、大変な、お祝いをしてもらいました。

一人ぼっちで、親元を離れ頑張っている、陽子に、頭の上がらない気持ちで、一杯ですが、そんな陽子を、守ってやるのは自分しか居ないと、思うと、事の重大さに気付かずにはおれない、毎日です。

そうは言っても、しばしば可哀想な事をすることもあります。

こんな頼り無い、二人ですが、精一杯頑張っ、て、やって行こうと思っていますので、今後、又色々相談する時もあるかとは思いますが、その折には宜敷く、お願いいたします。

先ずは挨拶まで。

こんな便りが来ると、保護司の大変な、ことも忘れて、これからも少しでも、犯罪のな

い社会の実現のため、努力しようと思います。

人を信ずることの大切さを実感いたしました。



美しくなるための研究

L 中 島 寛 子

私が以前ファッション研究会でお聞きした事を思い浮かべながら書いて見ました。毎日沢山鏡を見る程綺麗になります。鏡を見る時は顔をしかめて見る人はいないし、にっこり頬笑んで見て、自分のいゝ顔を作ります。

鏡を見る時は魂との対決ですので、注意深く見る事が大切です。今日は目が優しいとか、きついか、表情が顔に出ていますので、それで自分の顔をいゝ顔に持ってゆく様、心懸る事が大切です。玄関の脇にはなるだけ、等身大の鏡を置いて、靴を履き、バックを持って見て全体のバランスを、前から横から、眺めて見て、出掛けるとなおいゝと思います。

次は手の問題ですが、手は喋らないけど動作によって訴えて居ます。右手は右の脳から来て自己表現をする、どちらかと云えば堅い感じの手です。それで右手は命令をする時に使った方がいゝし、左手は左の脳から来て情緒的な手ですので、女の優しさをふるに使われた方が魅力的になると思います。たとえば指をさす場合でも左手の指を出して差すとても優しくなります。その為でしょうか、左の胸にポケットがありスカーフも左の方に結び目を持って行きますし、ブローチも左の肩に付けるのが普通に成っています。洋服の場合でも左の肩に柄を持って行った方が背も高

く見えるし素敵です。そして両手は、なるだけ上の方、目の近くで動かした方がとても美しく見えます。下の方で動かすと、とてもおかしくなります。手の肘は、おへその方に向けて付けると綺麗です。タバコを吸う時も同じです。食事の時は、両肘はなるべく離さないで肩巾より外に出さない方が綺麗です。何時も姿勢が大事です。背筋をしっかり伸して坐る時も立つ時も背を伸すと若々しく見えます。お茶を飲む時もカップに口を近づけるのでは無く口にカップを近づけた方が綺麗です。男性から綺麗ですねと云われたら、有難度うとんでもないと軽く笑う事が大切です。ツンとすまして、横を向いたりしたらダメです。ほめ上手になる事、その物ずばりをほめるのでは無く中身をほめる事です。男性は気分次第で歳を取り、女性はおしゃれ次第で歳を取ると云われています。魅力的な女性は年令を持たないものです。30才を過ぎたら自分で磨いてそれを持続していかなければ素敵な女性にはならないと思います。常に人から見られていると云う緊張感を持つ事がますます美し

さを増して行くと云われています。私達もまだまだ眠っている素晴らしい魅力を発見して、自分を磨き、いつまでも美しく生きる女性に成りたいと思います。

次期会長を決意して



L. 大 山 朱 實

桜ライオンズクラブが、5年目を迎えます。覚悟はしていたものの、実際に会長と言う大役を引き受けて、とまどいを感じています。今では、しっかりと大地に根を張り、空に向かって成長しつつある桜ライオンズクラブです。これからは急がず、あせらず、ゆっくりと成長していく事を願っています。

私は初代の幹事をいたしました。当時の事を思い出してみますと、何も分からない手探りの状態で分からないまま幹事を終えたという印象です。そして今、一まわりも二まわりもライオンズと共に成長した自分自身に気づきます。ライオンズで勉強させていただいたお蔭だと思います。

今期の私の目的は「和」です。和気あいあいと仲良く、ライオニズムの高揚に精進したいと思います。

幸いにして、私達のクラブは常に楽しく集い、楽しく奉仕をしています。今後とも、このすばらしいクラブの雰囲気をごわさないよう努力し、より楽しい会にしたいと思っています。

皆様方の御協力を、よろしくお願い致しまして、私の挨拶といたします。

編集後記

第2回「花のかたらい」を皆さまにお届け致します。今回は今期のクラブの多彩なアクティビティの数々を座談会形式で語っていただき又「おもいのままに」と題しまして、お寄せ頂きました原稿を順次掲載させて頂きました。おかげ様で慣れない私達3名でやっと完成の運びとなったわけでございます。この一年間はPR活動を通じて、数々の皆様とのふれあいの中で感動、感激、感心の年でございました。厚く感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回の編集に特別のご指導を頂きました会長L松井と本誌並びに合同誌の原稿依頼にたいし寄稿を賜りました執筆者の皆様方に対して深甚の感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

PR委員長 木原 園枝
PR副委員長 吉松 セツエ
PR委員 野田 恵美子



アクティビティ

- 7月 ○労力アクト ベッドメイキング 手作りおやつ
- 8月 ○街頭献血運動
○納涼例会 オークション益金 553,000円
○労力アクト おむつたたみ 手作りおやつ
- 9月 ○「高齢社会—男性の視点」シンポジウム
国際ホールに於て開催
○台湾慈慧LC来日
合同例会及び歓送迎会
手作りおもちゃ製作見学
○労力アクト おむつたたみ 手作りおやつ
- 10月 ○LCIFへ個人及びクラブより
○労力アクト 老人ホーム おむつたたみ
手作りおやつ
- 11月 ○古切手収集
○資金獲得トークショー（宮尾すすむ）
第一回CSFキャンペーン 益金 2,643,000円
○CSFに1万\$寄贈
○労力アクト おむつたたみ 手作りおやつ
- 12月 ○手作りおもちゃの展示会（於 イムズ）
展示品300点 1週間開催
○クリスマスプレゼントを贈る
老人ホーム
南福岡病院小児科病棟
松風園
（手作りおもちゃ）
○筑紫少女園 桜の木寄贈及び手作りハンガー寄贈
○労力アクト おむつたたみ 手作りおやつ
- 1月 ○中学生作文募集 応募数277点
○姉妹クラブ台湾慈慧LC訪問
記念式典参加
新竹市私立天主教仁愛啓智中心擁護施設訪問
100,000円寄贈
○労力アクト おむつたたみ 手作りおやつ
- 2月 ○糖尿病講演会開催
○糖尿病愛の会へ 300,000円寄贈
- 2月 ○チャーターナイト記念例会
オークション益金 400,000円
○作文の入選者表彰式及び作品集作製
○労力アクト 老人ホーム おむつたたみ
手作りおやつ
○福祉教育「さくら活動」へ
陶芸釜贈る（中学生と老人の共同作業）



FUKUOKA SAKURA
LIONS CLUB

